



なかしん

中小企業景況レポート

No.19 中栄信用金庫 地域支援部

平成 28 年 4 月～6 月実績と平成 28 年 7 月～9 月見込み

◆調査概要

調査時期 平成 28 年 6 月上旬
 調査地域 秦野市、伊勢原市、平塚市、厚木市、開成町
 調査企業数 348 社
 回答企業数 346 社

【調査先及び回答状況】

	調査先	回答数	回答率
製造業	96	95	98.9
卸売業	24	24	100.0
小売・飲食業	66	66	100.0
サービス業	56	56	100.0
建設業	66	65	98.4
不動産業	40	40	100.0
合計	348	346	99.4

◆4月～6月期の概況

～景況感は小幅悪化、足踏み状態が続く～

当金庫主要営業地区内における中小企業を対象に景気動向調査を実施した結果、全業種総合の業況判断 D.I. は▲12.1 を示し、前回調査（平成 28 年 1 月～3 月期）に比べ 1.9 ポイントの小幅悪化となりました。大型連休や季節需要等により、一部業種において個人消費の持ち直しの動きがみられたものの、中国をはじめとする新興国経済の減速に伴う景気先行きへの不透明感や売上確保に向けた同業者間の価格競争、年度末に工期が集中した公共工事の反動減等により、売上額 D.I. は 6.6 ポイント悪化の▲9.8 となり、景況感は小幅悪化に至ったものと思われます。さらに、特別調査からも見て取れる通り、約 3 割の企業が今春賃上げを実施したと回答しており、慢性的な人手不足を背景に、従業員の待遇改善や人材確保に伴う人件費の増加に加え、仕入価格上昇分の販売価格への転嫁に苦慮する企業も多いことから、収益環境についても厳しい状況となっております。

今後については、一部企業において、各種補助金や助成金を活用し、機械設備の導入に踏み切る企業や受注増加に伴う工場・生産ラインの増設などを行う企業も見受けられることから、景況感は僅かながら改善が予想されます。

項目別にみると、売上実績 D.I. は 6.6 ポイント悪化の▲9.8、収益実績 D.I. は 5.2 ポイント悪化の▲12.8 となっております。また、仕入価格 D.I. は上昇感が強まり 2.9 ポイント上昇の 12.8、人手過不足についてはほぼ横這いの▲24.0 となっております。

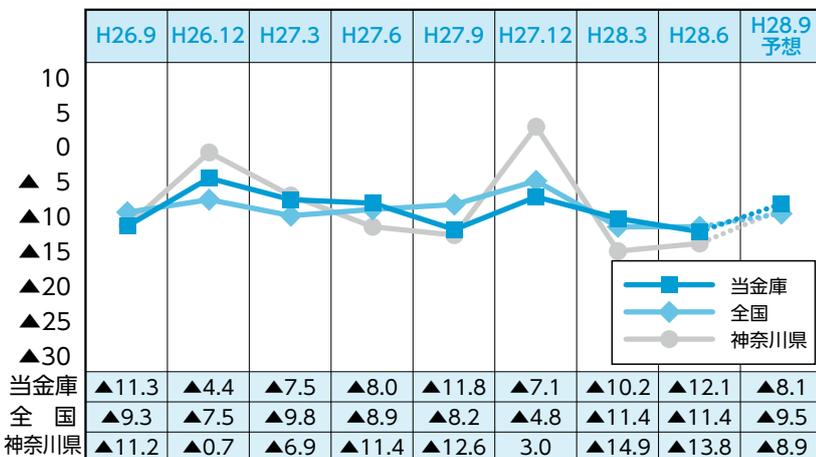
また、業種別の景況感は、卸売業が 21.9 ポイント改善の▲4.2、製造業が 4.2 ポイント改善の▲12.6、小売・飲食業が 2.5 ポイント改善の▲27.2、サービス業が横這いの▲12.5、不動産業が 12.5 ポイント悪化の▲22.5、建設業が 18.1 ポイント悪化の 7.7 となっております。（業種別の詳細については、次頁以降をご参照ください。）

なお、全国の中小企業業況判断 D.I. は、横這いの▲11.4、神奈川県内は、1.1 ポイント小幅改善の▲13.8 となっております。（全国と神奈川県の D.I. 値については、信金中央金庫による調査に基づいております。以下同様。）

◆7月～9月期の見通し

来期の業況判断予想は、4.0 ポイント改善の▲8.1、売上額 D.I. は 10.7 ポイント改善の 0.9、収益 D.I. は 10.5 ポイント改善の▲2.3 の予想となり、卸売業、不動産業以外の業種で改善が見込まれます。また次回調査においては、消費税増税の再延期による影響も注視されます。

業況判断 D.I. 値 (全業種)



業種別景気天気図

	前期	今期	予想
総合			
製造業			
卸売業			
小売・飲食業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成しました。

好調 ← → 低調 悪い

全国、神奈川県の業況判断 D.I. 値は、信金中央金庫 地域・中小企業研究所が全国約 16,000（うち神奈川県 約 480）の中小企業を対象に実施している「全国中小企業景気動向調査」の調査データに基づいております。

D.I. 値とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「良い」「やや良い」と回答した企業の割合から、「悪い」「やや悪い」と回答した企業の割合を引いた値です。値が小さいほど業況判断は悪いということになります。

製造業

概況

製造業の業況判断 D.I. は前回調査比 4.2 ポイント改善の ▲12.6 となりました。

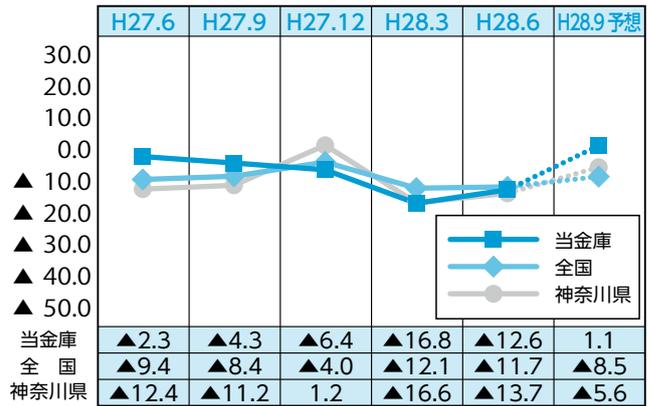
項目別では、売上額 D.I. は前回調査比 4.2 ポイント悪化の ▲5.3、収益 D.I. はほぼ横這いの ▲9.5 となっております。

材料費や人件費等のコスト高により、原材料価格 D.I. は 3.2 ポイント上昇の 7.4 と厳しい収益環境が続く中、受注が増加傾向となり、工場や生産ラインを増設する企業が見受けられ、来期の売上額・収益 D.I. がプラス域に転じると予想されることから、5 期ぶりに景況感が改善したものと思われま。また、新製品・技術の開発に注力する企業や作業効率向上に向け、各種補助金や助成金を活用し、機械設備の導入に踏み切る企業も見受けられます。

なお、全国はほぼ横這いの ▲11.7 となっており、神奈川県は 2.9 ポイント改善の ▲13.7 となっております。

来期の予想業況判断については、13.7 ポイント改善の 1.1 となっております。

業況判断D.I.値



売上額

	28年 4~6月	28年 7~9月	28年 10~12月	D.I.
前期実績	29.4	40.1	30.5	▲1.1
当期実績	23.1	48.5	28.4	▲5.3
来期予想	28.4	55.9	15.7	12.7
前年同期比	28.4	31.6	40.0	▲11.6

販売価格

	28年 4~6月	28年 7~9月	28年 10~12月	D.I.
前期実績	-10.5	80.1	9.4	1.1
当期実績	-8.4	87.4	4.2	4.2
来期予想	-4.2	90.6	5.2	▲1.0

在庫

	28年 4~6月	28年 7~9月	28年 10~12月	D.I.
前期実績	-6.3	93.7		6.3
当期実績	-4.2	95.8		4.2
来期予想	-3.1	95.9	1.0	2.1

人手

	28年 4~6月	28年 7~9月	28年 10~12月	D.I.
前期実績	13.6	57.0	29.4	▲15.8
当期実績	14.7	65.3	20.0	▲5.3
来期予想	-6.3	69.5	24.2	▲17.9

収益

	28年 4~6月	28年 7~9月	28年 10~12月	D.I.
前期実績	20.0	50.6	29.4	▲9.4
当期実績	18.9	52.7	28.4	▲9.5
来期予想	26.3	54.8	18.9	7.4
前年同期比	28.4	34.8	36.8	▲8.4

原材料価格

	28年 4~6月	28年 7~9月	28年 10~12月	D.I.
前期実績	-10.5	83.2	6.3	4.2
当期実績	12.6	82.2	5.2	7.4
来期予想	-9.4	89.6	1.0	8.4

資金繰り

	28年 4~6月	28年 7~9月	28年 10~12月	D.I.
前期実績	12.6	66.4	21.0	▲8.4
当期実績	-7.3	73.8	18.9	▲11.6
来期予想	-6.3	76.9	16.8	▲10.5

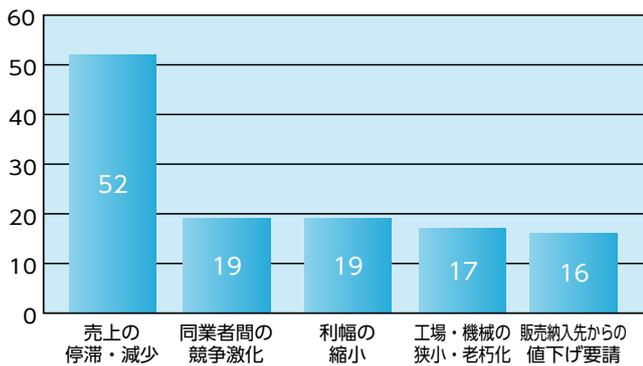
設備状況

	28年 4~6月	28年 7~9月	28年 10~12月	D.I.
前期実績	-9.5	75.7	14.8	▲5.3
当期実績	-7.3	74.9	17.8	▲10.5
来期予想	-4.2	75.8	20.0	▲15.8

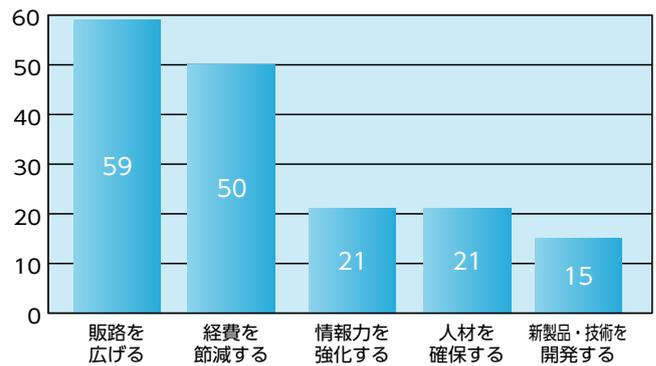
当期実績…28年 4～6月期
来期予想…28年 7～9月期

□ 良い、増加、上昇 過剰、楽 □ 普通、変わらず 適正 □ 悪い、減少、下降 不足、苦しい

経営上の問題点 (複数回答)



当面の重点経営施策 (複数回答)



卸売業

概況

卸売業の業況判断 D.I. は前回調査比 21.9 ポイント改善の▲4.2 となりました。

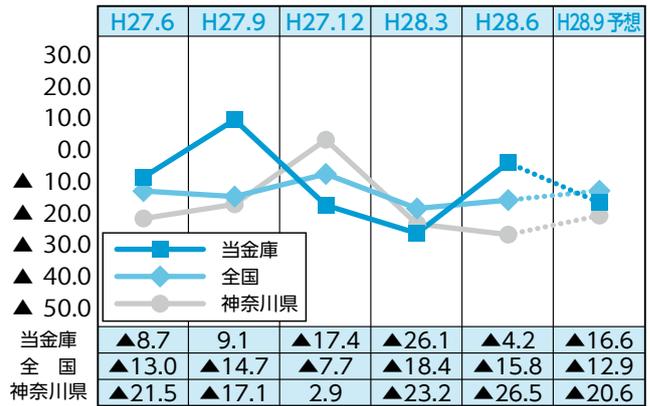
項目別では、売上額 D.I. は前回調査比 11.9 ポイント悪化の▲25.0、収益 D.I. は横這いの▲13.0、資金繰り D.I. は 8.7 ポイント改善の▲8.7 となっております。

食料品卸売業における新規顧客獲得の動きとともに、販売価格 D.I. が 8.7 ポイント改善の▲4.4 となり、資金繰りが改善したことから、業況判断 D.I. の改善に至ったものと思われます。しかし、約 4 割の企業が同業者間の価格競争を経営上の問題点としていることに加え、一部では、小口注文・多頻度配送の増加を挙げており、依然として厳しい経営環境が窺えることから、物流コスト低減を考慮し、流通経路の見直しなど効率的な物流体制の構築が課題となっております。

なお、全国は 2.6 ポイント改善の▲15.8 となっております。神奈川県は 3.3 ポイント悪化の▲26.5 となっております。

来期の予想業況判断については、12.4 ポイント悪化の▲16.6 となっております。

業況判断D.I.値



売上額

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	26.0	34.9	39.1	▲13.1
当期実績	12.5	50.0	37.5	▲25.0
来期予想	25.0	45.9	29.1	▲4.1
前年同期比	16.6	50.1	33.3	▲16.7

販売価格

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	-8.6	69.7	21.7	▲13.1
当期実績	-8.6	78.4	13.0	▲4.4
来期予想	17.3	74.1	8.6	8.7

在庫

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	-4.3	91.4	4.3	0.0
当期実績	-8.6	91.4		8.6
来期予想	-8.6	91.4		8.6

人手

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	-8.6	78.4	13.0	▲4.4
当期実績	-4.1	75.1	20.8	▲16.7
来期予想	-4.1	66.8	29.1	▲25.0

収益

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	21.7	43.6	34.7	▲13.0
当期実績	13.0	61.0	26.0	▲13.0
来期予想	21.7	56.6	21.7	0.0
前年同期比	16.6	58.4	25.0	▲8.4

仕入価格

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	-8.6	78.4	13.0	▲4.4
当期実績	18.1	77.4	4.5	13.6
来期予想	17.3	78.4	4.3	13.0

資金繰り

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	-8.6	65.4	26.0	▲17.4
当期実績	13.0	65.3	21.7	▲8.7
来期予想	-8.6	69.7	21.7	▲13.1

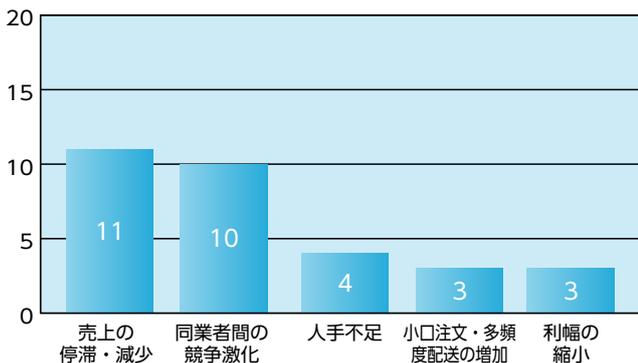
設備状況

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績		87.0	13.0	▲13.0
当期実績		79.2	20.8	▲20.8
来期予想		78.3	21.7	▲21.7

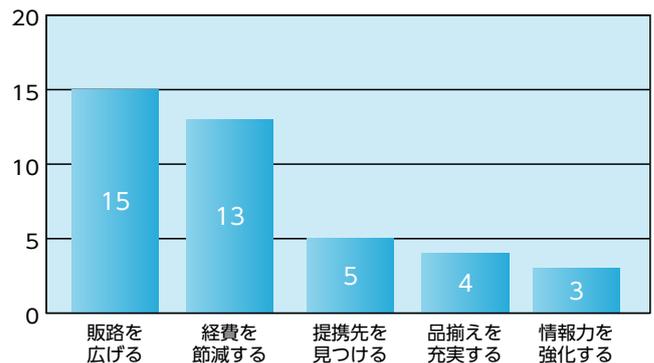
当期実績…28年 4～6月期
来期予想…28年 7～9月期

□ 良い、増加、上昇 過剰、楽 □ 普通、変わらず 適正 □ 悪い、減少、下降 不足、苦しい

経営上の問題点 (複数回答)



当面の重点経営施策 (複数回答)



小売・飲食業

概況

小売・飲食業の業況判断 D.I. は前回調査比 2.5 ポイント改善の▲27.2 となりました。

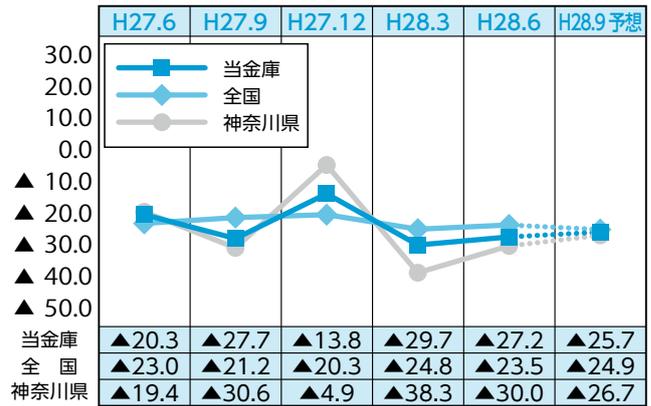
項目別では、売上額 D.I. は前回調査比 10.0 ポイント改善の▲16.6、収益 D.I. は 9.8 ポイント改善の▲15.2、資金繰り D.I. は 14.4 ポイント改善の▲10.6 となっております。

前回調査における年末需要の反動減よりやや持ち直したものの、消費者の節約志向、選別志向が続き、飲食業を中心に売上は低迷していることから、依然として業況はマイナス域が続いております。また厳しい経営環境の中、一部企業においては、店舗縮小、不採算店舗の閉鎖などの企業努力により、収益を確保する動きもみられます。

なお、全国は 1.3 ポイント小幅改善の▲23.5、神奈川県は 8.3 ポイント改善の▲30.0 となっております。

来期の予想業況判断については、1.5 ポイント小幅改善の▲25.7 となっております。

業況判断D.I.値



売上額

	前期実績	当期実績	来期予想	前年同期比	D.I.
前期実績	21.8	29.8	48.4	▲26.6	
当期実績	22.7	38.0	39.3	▲16.6	
来期予想	21.5	41.6	36.9	▲15.4	
前年同期比	22.7	47.0	30.3	▲7.6	

販売価格

	前期実績	当期実績	来期予想	D.I.
前期実績	9.5	74.7	15.8	▲6.3
当期実績	6.0	81.9	12.1	▲6.1
来期予想	6.1	86.3	7.6	▲1.5

在庫

	前期実績	当期実績	来期予想	D.I.
前期実績	21.8	72.0	6.2	15.6
当期実績	25.7	68.3	6.0	19.7
来期予想	15.3	78.6	6.1	9.2

人手

	前期実績	当期実績	来期予想	D.I.
前期実績	4.6	57.9	37.5	▲32.9
当期実績	3.0	50.1	46.9	▲43.9
来期予想	1.5	50.1	48.4	▲46.9

収益

	前期実績	当期実績	来期予想	前年同期比	D.I.
前期実績	17.1	40.8	42.1	▲25.0	
当期実績	16.6	51.6	31.8	▲15.2	
来期予想	15.3	47.8	36.9	▲21.6	
前年同期比	21.2	48.5	30.3	▲9.1	

仕入価格

	前期実績	当期実績	来期予想	D.I.
前期実績	21.8	68.9	9.3	12.5
当期実績	24.2	68.3	7.5	16.7
来期予想	15.3	78.6	6.1	9.2

資金繰り

	前期実績	当期実績	来期予想	D.I.
前期実績	10.9	53.2	35.9	▲25.0
当期実績	16.6	56.2	27.2	▲10.6
来期予想	13.6	54.6	31.8	▲18.2

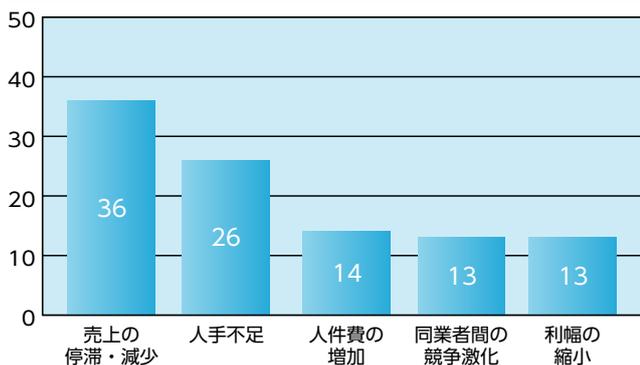
設備状況

	前期実績	当期実績	来期予想	D.I.
前期実績	3.1	84.4	12.5	▲9.4
当期実績	1.5	81.9	16.6	▲15.1
来期予想	3.1	79.5	17.4	▲14.3

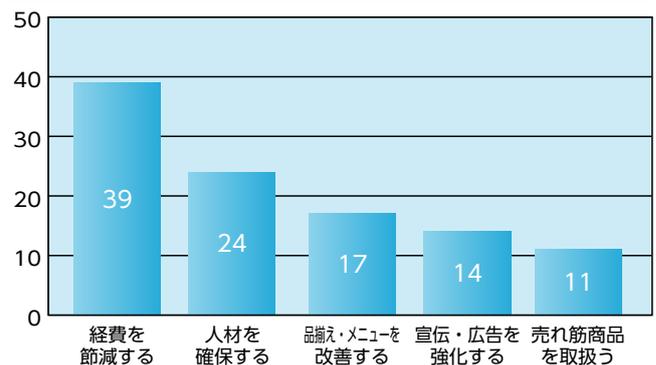
当期実績…28年 4～6月期
来期予想…28年 7～9月期

□ 良い、増加、上昇 過剰、楽 □ 普通、変わらず 適正 □ 悪い、減少、下降 不足、苦しい

経営上の問題点 (複数回答)



当面の重点経営施策 (複数回答)



サービス業

概況

サービス業の業況判断D.I.は前回調査からほぼ横這いの▲12.5となりました。

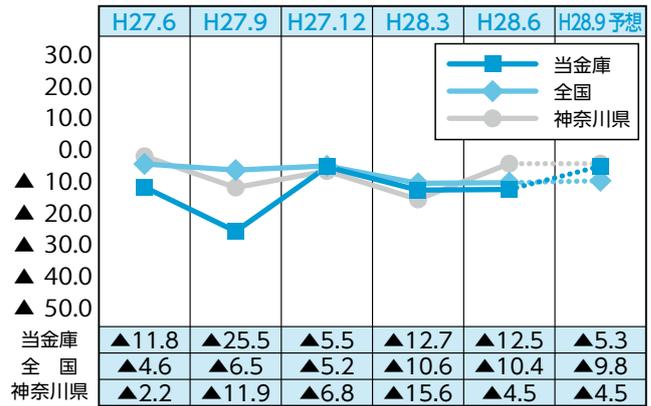
項目別では、売上額D.I.はほぼ横這いの▲10.8、収益D.I.は5.7ポイント改善の▲12.5となっております。

経営上の問題点として、約3割の企業が人手不足を挙げており、人手過不足D.I.が▲41.0と、調査開始以来最も不足感が強まる中、大型連休や季節的要因に伴う売上の確保や労働時間の調整による労務費などの経費削減努力から、資金繰りD.I.は9.6ポイント改善の▲23.2となっております。また、高齢化に伴う介護需要の増大により、一部企業においては、介護関連の事業所を新設する動きが見受けられます。

なお、全国はほぼ横這いの▲10.4となっており、神奈川県は11.1ポイント改善の▲4.5となっております。

来期の予想業況判断については、7.2ポイント改善の▲5.3となっております。

業況判断D.I.値



売上額

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	23.6	43.7	32.7	▲9.1
当期実績	26.7	35.8	37.5	▲10.8
来期予想	33.9	44.7	21.4	12.5
前年同期比	32.7	29.2	38.1	▲5.4

料金価格

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	3.6	85.5	10.9	▲7.3
当期実績	1.7	89.4	8.9	▲7.2
来期予想	1.7	89.4	8.9	▲7.2

資金繰り

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	7.2	52.8	40.0	▲32.8
当期実績	10.7	55.4	33.9	▲23.2
来期予想	12.5	57.2	30.3	▲17.8

設備状況

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	1.8	69.2	29.0	▲27.2
当期実績	1.7	73.3	25.0	▲23.3
来期予想	1.7	75.1	23.2	▲21.5

収益

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	12.7	56.4	30.9	▲18.2
当期実績	21.4	44.7	33.9	▲12.5
来期予想	26.7	53.7	19.6	7.1
前年同期比	27.2	36.5	36.3	▲9.1

材料価格

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	16.3	80.1	3.6	12.7
当期実績	19.6	78.7	1.7	17.9
来期予想	16.0	80.5	3.5	12.5

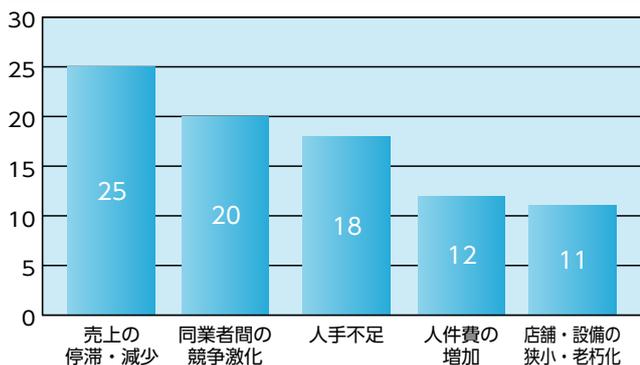
人手

	前期実績	28年 4~6月期	28年 7~9月期	D.I.
前期実績	5.4	52.8	41.8	▲36.4
当期実績	59.0	41.0	41.0	▲41.0
来期予想	3.5	62.6	33.9	▲30.4

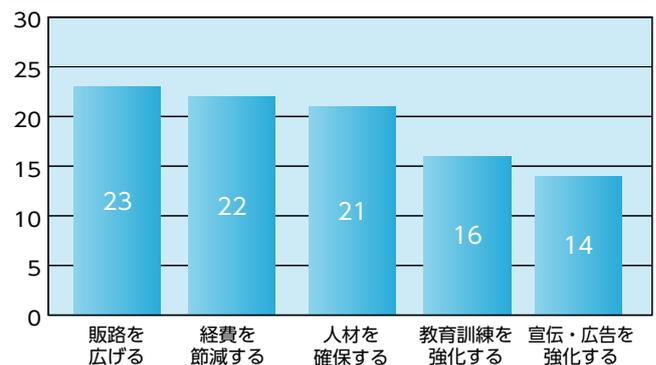
当期実績…28年 4～6月期
来期予想…28年 7～9月期

□ 良い、増加、上昇 過剰、楽 □ 普通、変わらず 適正 □ 悪い、減少、下降 不足、苦しい

経営上の問題点 (複数回答)



当面の重点経営施策 (複数回答)



建設業

概況

建設業の業況判断 D.I. は前回調査比 18.1 ポイント悪化の 7.7 となりました。

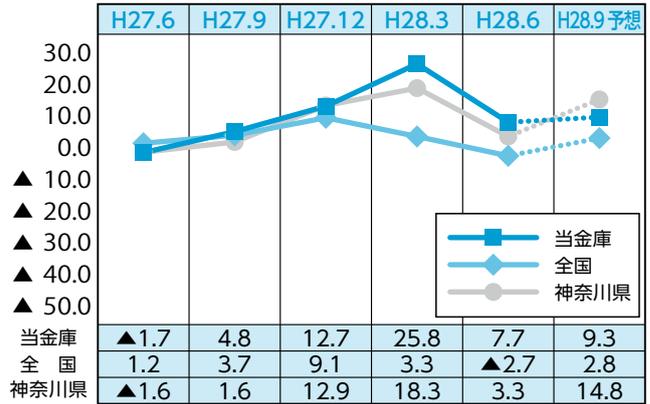
項目別では、売上額 D.I. は前回調査比 31.8 ポイント悪化の▲7.6、収益 D.I. は 41.3 ポイント悪化の▲21.6 となっております。

年度末に集中した公共工事の反動減や請負価格の下落、大型工事の工期遅れ等により、約 3 割の企業が売上の停滞・減少を経営上の問題点として挙げていることから、主要項目の連鎖的悪化に至ったものと思われます。また、公共工事の獲得を見込む先や医療・介護施設等の民間工事受注の動きもあることから、景況感はずプラス域を維持しており、人件費や資材費等のコスト負担の増加を踏まえた採算管理の徹底が今後の課題となっております。

なお、全国は 6.0 ポイント悪化の▲2.7 となっており、神奈川県は 15.0 ポイント悪化の 3.3 となっております。

来期の予想業況判断については、1.6 ポイント改善の 9.3 となっております。

業況判断D.I.値



売上額

	前期実績	当期中	当期末	D.I.
前期実績	37.8	48.6	13.6	24.2
当期実績	20.0	52.4	27.6	▲7.6
来期予想	23.0	58.6	18.4	4.6
前年同期比	16.9	58.5	24.6	▲7.7

請負価格

	前期実績	当期中	当期末	D.I.
前期実績	22.7	68.3	9.0	13.7
当期実績	7.6	83.2	9.2	▲1.6
来期予想	13.8	80.1	6.1	7.7

在庫

	前期実績	当期中	当期末	D.I.
前期実績	4.5	94.0	1.5	3.0
当期実績	1.5	97.0	1.5	0.0
来期予想	1.5	92.4	6.1	▲4.6

人手

	前期実績	当期中	当期末	D.I.
前期実績	3.0	60.7	36.3	▲33.3
当期実績	6.1	63.2	30.7	▲24.6
来期予想	3.0	63.2	33.8	▲30.8

収益

	前期実績	当期中	当期末	D.I.
前期実績	31.8	56.1	12.1	19.7
当期実績	10.7	57.0	32.3	▲21.6
来期予想	16.9	67.8	15.3	1.6
前年同期比	18.4	60.1	21.5	▲3.1

材料価格

	前期実績	当期中	当期末	D.I.
前期実績	25.7	71.3	3.0	22.7
当期実績	7.6	70.9	1.5	26.1
来期予想	18.4	78.6	3.0	15.4

資金繰り

	前期実績	当期中	当期末	D.I.
前期実績	13.6	65.2	21.2	▲7.6
当期実績	13.8	69.3	16.9	▲3.1
来期予想	15.3	67.8	16.9	▲1.6

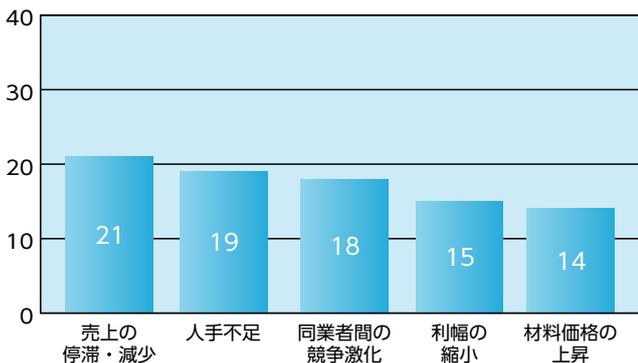
設備状況

	前期実績	当期中	当期末	D.I.
前期実績	1.5	95.5	3.0	▲1.5
当期実績	1.5	95.4	3.1	▲1.6
来期予想		95.4	4.6	▲4.6

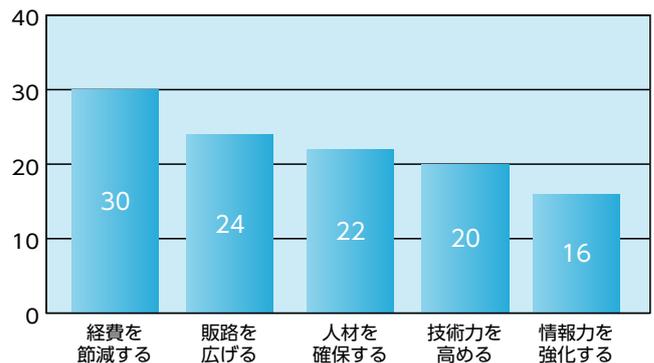
当期実績…28年 4～6月期
来期予想…28年 7～9月期

□ 良い、増加、上昇 過剰、楽 □ 普通、変わらず 適正 □ 悪い、減少、下降 不足、苦しい

経営上の問題点 (複数回答)



当面の重点経営施策 (複数回答)



不動産業

概況

不動産業の業況判断 D.I. は前回調査比 12.5 ポイント悪化の▲22.5 となりました。

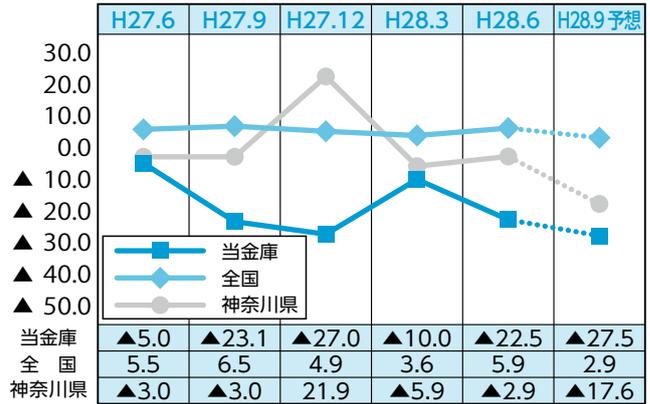
項目別では、売上額 D.I. は横這いの▲2.5、収益 D.I. についても横這いの▲2.5 となっております。

湘南エリアにおいては、不動産取引に動きがみられるものの、県西エリアでは、物件の在庫不足を挙げる企業が多く見受けられることから、在庫については 5.0 ポイント不足感が強まり、▲22.5 ポイントとなっております。また、経営上の問題点として、約 8 割の企業が情報力の強化を挙げ、収益を勘案した商品や良質な物件の仕入が課題となっており、今後については、消費税増税の再延期による影響も注視されます。

なお、全国は 2.3 ポイント改善の 5.9 となっており、神奈川県は 3.0 ポイント改善の▲2.9 となっております。

来期の予想業況判断については、5.0 ポイント悪化の▲27.5 となっております。

業況判断D.I.値



売上額

	前期実績	当期実績	来期予想	前年同期比	D.I.
前期実績	25.0	47.5	27.5	12.8	▲2.5
当期実績	27.5	42.5	30.0		▲2.5
来期予想	15.0	50.0	35.0		▲20.0
前年同期比	38.4	36.0	25.6		12.8

販売価格

	前期実績	当期実績	来期予想	D.I.
前期実績	75.0	25.0		▲25.0
当期実績	2.5	67.5	30.0	▲27.5
来期予想	70.0	30.0		▲30.0

在庫

	前期実績	当期実績	来期予想	D.I.
前期実績	-7.5	67.5	25.0	▲17.5
当期実績	-10.0	57.5	32.5	▲22.5
来期予想	-7.5	62.5	30.0	▲22.5

人手

	前期実績	当期実績	来期予想	D.I.
前期実績	80.0	20.0		▲20.0
当期実績	85.0	15.0		▲15.0
来期予想	85.0	15.0		▲15.0

収益

	前期実績	当期実績	来期予想	前年同期比	D.I.
前期実績	20.0	57.5	22.5	0.0	▲2.5
当期実績	22.5	52.5	25.0		▲2.5
来期予想	15.0	55.0	30.0		▲15.0
前年同期比	28.2	43.6	28.2		0.0

仕入価格

	前期実績	当期実績	来期予想	D.I.
前期実績	-10.0	82.5	7.5	2.5
当期実績	-5.0	80.0	15.0	▲10.0
来期予想	-2.5	82.5	15.0	▲12.5

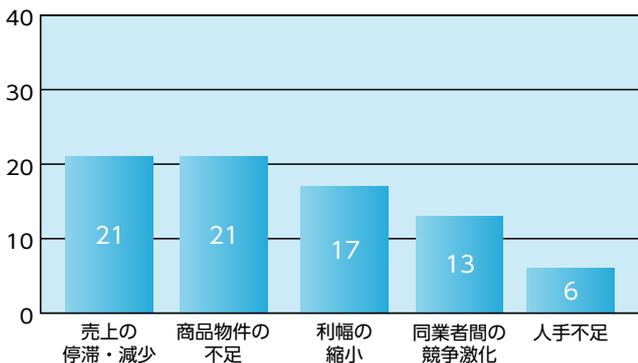
資金繰り

	前期実績	当期実績	来期予想	D.I.
前期実績	-5.0	80.0	15.0	▲10.0
当期実績	-7.5	80.0	12.5	▲5.0
来期予想	-5.0	77.5	17.5	▲12.5

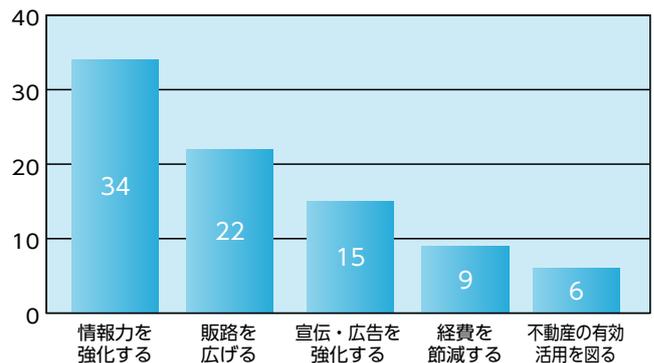
当期実績…28年 4～ 6月期
来期予想…28年 7～ 9月期

□ 良い、増加、上昇、過剰、楽 □ 普通、変わらず、適正 □ 悪い、減少、下降、不足、苦しい

経営上の問題点 (複数回答)



当面の重点経営施策 (複数回答)



当金庫のお客様 348 社にお願いして特別調査を実施いたしました。

問1. 貴社では、今春、賃上げを実施しましたか。実施した場合は、その理由について、1つお答えください。また、賃上げを実施しなかった場合、その理由について1つお答えください。

賃上げを実施した理由

○政府の賃上げ要請	6社
○自社の業績改善を反映	11社
○同業他社、地域他社の賃上げ	5社
○従業員の待遇改善	89社
○その他	7社

賃上げを実施しなかった理由

○これまでに賃上げを実施済み	40社
○景気見通しが不透明	61社
○自社の業績	80社
○賃上げを検討したことがない	40社
○その他	7社

問2. 貴社では、賃上げを実施する場合、どのような過程で決定しますか。

1位 幹部間での協議	157社	4位 その他	16社
2位 代表者（代表取締役社長）1人の判断	142社	5位 労働者組合との団体協議	1社
3位 従業員との個別協議	27社		

問3. 貴社では、通常、どのような条件が生じれば、賃上げを実施しようと思えますか。3つ以内でお答えください。

1位 自社の業況の改善	252社	6位 取引条件の改善（価格転嫁等）	31社
2位 景気見通しの不透明感の払拭	126社	7位 人材獲得競争の激化	28社
3位 従業員の定着・士気高揚の必要性増大	120社	8位 助成金・補助金・優遇税制などの拡充	16社
4位 最低賃金法上の最低賃金の上乗せ改定	36社	9位 同地域の賃金相場の改善	13社
5位 同業種の賃金相場の改善	32社	10位 その他	6社

問4. 貴社では、どのような状況になれば、より積極的な正社員採用をしようと思えますか。3つ以内でお答えください。

1位 自社の業況の改善	187社	6位 そもそも積極的な正社員採用を行うつもりはない	34社
2位 欠員の発生	159社	7位 雇用助成金・補助金・優遇税制などの拡充	19社
3位 景気見通しの不透明感の払拭	106社	8位 その他	10社
4位 従業員の高齢化の進行	81社	9位 金融機関の融資面での各種優遇条件の拡充	3社
5位 新分野・新事業への進出	44社	10位 他社の採用の積極化	2社

問5. 貴社では、人材の定着を図るため、どのような対応が必要だとお考えですか。3つ以内でお答えください。

1位 働きやすい職場環境づくり	238社	6位 社内研修制度の充実・魅力向上	27社
2位 給与面の待遇改善	200社	7位 社内イベント（社員旅行等）の開催	20社
3位 自社の業務の魅力向上	89社	7位 自社の知名度の向上（PR活動）	20社
4位 給与面以外の福利厚生面の待遇改善	85社	9位 非正規雇用（パート・派遣）の正規雇用化	14社
5位 特に対応の必要性を感じていない	30社	10位 その他	3社

経営のポイント!

『自社の決算書を見直そう! ④』

前回に続き、今回は経常利益、当期純利益について見ていきましょう。

【経常利益】

経常利益（H）とは、営業利益（E）に営業外収益（F）を加え、営業外費用（G）を引いた利益であり、企業の日常的な活動の結果得られた利益のことです。

【当期純利益】

当期純利益（J）とは、税引き前当期純利益（I）から法人税などの税金を差し引いたあとの利益のことです。売上高からすべての費用と税金を引いて残った企業の純粋の利益のことであり、どれだけ努力をして、成果を生み出したかという尺度となる利益のことです。

昨年発行のなかしん中小企業景況レポート No.15 より損益計算書にスポットを当て、各利益について説明を行ってきました。大事な事としては、「利益を得ることが出来た理由」や「損をしてしまった理由」を日頃から把握する事が大切であり、日々刻々と変化する環境に対応し、改善方法等を考えることが重要です。

各業種や企業規模により改善方法は大きく異なりますので、詳しくは中栄信用金庫にお気軽にご相談ください。

損益計算書	
自 平成〇〇年〇月〇日	
至 平成〇〇年〇月〇日	
売上高(A)	〇〇〇
売上原価(B)	〇〇〇
売上総利益(C)	〇〇〇
販売費および一般管理費(D)	〇〇〇
営業利益(E)	〇〇〇
営業外収益(F)	
受取利息	〇〇〇
営業外費用(G)	
支払利息	〇〇〇
経常利益(H)	〇〇〇
特別利益	
固定資産売却益	〇〇〇
特別損失	
固定資産売却損	〇〇〇
税引前当期純利益(I)	〇〇〇
法人税および事業税	〇〇〇
当期純利益(J)	〇〇〇